

希望が丘こども医療福祉センター クリニカルラダー

平成30年3月改定

定義	レベル	I	II	III	IV	V
レベル毎の定義		基本的な看護手順に従い必要に応じて助言を得て看護を実践する	標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する	ケアの受け手に合う助動的な看護を実践する	幅広い視野で予測的判断を持ち看護を実践する	より複雑な状況において、ケアの受け手にとっての最適な手段を選択し、QOLを高めるための看護を実践する
到達目標		看護手順に沿い必要に応じて助言を得て行動できる	臨床場面において標準的な看護実践を自立して行える	専門的な知識技術を活用し子どもと家族に適切なサービスが提供できる	専門知識と技術を活用し卓越した看護を提供し適切なケアが提供できる	専門領域における熟練した看護を提供でき指導者を育成できる
看護の核となる実践能力	ニーズをとらえる力	<p>【レベル毎の目標】</p> <p>助言を受けながら子どもと家族の状況やニーズをとらえることができる</p> <p>【行動目標】</p> <p>□指導を受けながら子どもと家族の身体的、社会的、精神的、スピリチュアルな側面から情報収集ができる</p> <p>□子どもと家族の状況から緊急度をとらえることができる</p>	<p>□自立して子どもと家族の身体的、身体的、社会的、精神的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができ、計画立案ができる</p> <p>□得られた情報をもとに子どもと家族の全体像から課題を捉えることができる</p>	<p>□子どもと家族の状況や特性をふまえて、ニーズをとらえることができる</p> <p>□子どもと家族を全人的にアセスメントし、多職種からも情報収集することができる</p> <p>□子どもや家族の訴えから考えられる問題、現象を考えるとすることができる</p> <p>□得られた情報から優先度の高いニーズをとらえることができる</p>	<p>□子どもと家族の状況を統合しニーズをとらえることができる</p> <p>□予測的な状況判断のもと身体的、社会的、精神的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる</p> <p>□意図的に収集した情報を統合し、ニーズをとらえることができる</p>	<p>□専門領域における熟練した看護を提供でき指導者を育成できる</p> <p>□複雑な状況を把握し、子どもと家族の受け手を取り巻く多様な状況やニーズの情報を収集することができる</p> <p>□複雑な問題に至った経緯や要因を1つずつ詳細ながら、子どもと家族の真のニーズを把握し、問題を明確にできる</p> <p>□子どもと家族や周囲の人々の価値観に合った判断ができる</p>
	ケアする力	<p>【レベル毎の目標】</p> <p>助言を受けながら安全な看護を実践することができる</p> <p>【行動目標】</p> <p>□指導を受けながら看護標準に沿ったケアを実践できる</p> <p>□指導を受けながら子どもに基本的な看護援助ができる</p> <p>□看護手帳やガイドラインに沿って基本的な看護技術を用いて援助ができる</p>	<p>□子どもの個別性を考慮しつつ標準的な看護計画に基づきケアを実践し、必要に応じて計画の追加修正を行うことができる</p> <p>□子どもに対してケアを実践する際に必要な情報を得ることができる</p> <p>□子どもと家族の状況に応じた援助ができる</p>	<p>□子どもと家族の個性を捉え、エビデンスに基づいた計画立案と実践ができる</p> <p>□子どもと家族の潜在的、潜在的なニーズを察知し、ケアの方法工夫ができる</p> <p>□子どもと家族の個別性をとらえ、看護実践に反映できる</p>	<p>□子どもと家族の潜在的、潜在的なニーズに応えるため適切な選択ができる</p> <p>□子どもと家族の潜在的、潜在的なニーズを察知し、ケアの方法工夫ができる</p> <p>□幅広い視野で子どもと家族を捉え、適切な課題や問題に対して予測的および予防的に看護実践ができる</p>	<p>□最新の知見を取り入れた創造的な看護を実践することができる</p> <p>□子どもと家族の複雑なニーズに対応するため、あらゆる治療的介入、ケアを評価、追及することができる</p> <p>□複雑な問題をアセスメントし、子どもと家族の希望に寄り添った最適な看護ケアを実践できる</p>
	協働する力	<p>【レベル毎の目標】</p> <p>関係者と情報共有ができる</p> <p>【行動目標】</p> <p>□チームの一員として良好な人間関係を築くことができる</p> <p>□助言を受けながらチームの一員としての役割を担うことができる</p> <p>□子どもの看護において必要となる情報は何かを考慮し、多職種から情報収集することができる</p> <p>□助言を受けながらケアに関する関係者から収集することができる</p> <p>□時期を逃さず報告、連絡、相談ができる</p>	<p>□子どもと家族を取り巻く関係者の立場や役割の違いを理解した上で、積極的に情報交換ができる</p> <p>□関係者と密にコミュニケーションをとることができる</p> <p>□看護の展開に必要な関係者を特定でき、今後の方向性を確認することができる</p> <p>□看護の方向性や関係者の情報をチーム全体で把握し、共有できる</p>	<p>□子どもと家族やその関係者と多職種との連携ができる</p> <p>□子どもと家族のニーズをとらえ、対応するために、その関係者と協力しながら多職種連携を進めるとすることができる</p> <p>□子どもと家族のケアについて将来を見通しながら、多職種連携し、意見交換ができる</p> <p>□看護ケアをチームで共有し、取り組めるように働きかけることができる</p>	<p>□子どもと家族が置かれている状況を広くとらえ、結果を予測しながら多職種連携の必要性を見極め主体的に多職種と協力し合うことができる</p> <p>□多職種間の連携が機能するように調整できる</p> <p>□多職種連携や看護チーム内でのカンファレンスでは連携が促進されるようなファシリテートができる</p> <p>□子どもと家族の状況から今後起こりうる問題を予測し、CN、CNSなどの専門家の関わりを提案し調整することができる</p>	<p>□子どもと家族の複雑なニーズに対応できるように、多職種の力を引き出す連携に活かすことができる</p> <p>□複雑な状況の中で、見えにくくなっている子どもと家族のニーズに適切に対応し、必要な見極め主体的に多職種と協力し関係者に積極的に働きかけるとすることができる</p> <p>□多職種連携が十分に機能するよう全体を俯瞰し、調整役割を担うことができる</p> <p>□子どもの希望や価値観を尊重し、補完する目的の資源を活用することができる</p> <p>□目標に向かって多職種の力を引き出すことができる</p>
	意思決定を支える力	<p>【レベル毎の目標】</p> <p>子どもと周囲の人々の意向を知ることができる</p> <p>【行動目標】</p> <p>□子どもや家族との関わりの中で倫理的な問題に気づき、指導者やチームリーダーに伝えることができる</p> <p>□助言を受けながら子どもや家族、周囲の人々の思いや考え、希望を知ることができる</p>	<p>□子どもや周囲の人々の思い、考え、希望を意図的に確認することができる</p> <p>□子どもと家族の思いや考え、希望をケアに関連づけることができる</p>	<p>□子どもと家族や周囲の人々の意思決定に必要な情報提供や場の設定ができる</p> <p>□子どもと家族や周囲の人々の意思決定に必要となる情報を提供できる</p> <p>□子どもと家族や周囲の人々の意向、価値観を聞くことができる</p> <p>□子どもと家族や周囲の人々の意向の違いを多職種に代弁できる</p>	<p>□子どもと家族や周囲の人々の意思決定に伴うゆらぎを共有でき、選択を尊重できる</p> <p>□子どもと家族に積極的に関わり、気持ちを引き出しながら意思決定プロセスを促進することができる</p> <p>□意思決定場面において子どもや家族を尊重し寄り添い続けることができる</p> <p>□子どもと家族、看護、福祉関係者の意見が異なる時にカンファレンスの場等で調整ができる</p>	<p>□複雑な意思決定プロセスにおいて、多職種ももった調整的役割を担うことができる</p> <p>□適切な資源を積極的に活用し、子どもと家族や周囲の人々の意思決定プロセスを支援できる</p> <p>□法的および文化的配慮など多方面から子どもと家族や周囲の人々を擁護した意思決定プロセスを支援できる</p>
集合研修		新・転任者研修会への参加	専門分野に関する研修参加(センター内外)	専門分野に関する研修参加(センター内外)	専門分野に関する研修参加(センター内外)	専門分野に関する研修参加(センター内外)
実践研修		看護倫理事例検討会 輪状カンファレンスの扱い方 集合教育で行われたものを実践とともに知識の確認をする 急変時の対応 新人チェックリストに基づく	看護倫理事例検討会 輪状カンファレンスの扱い方 急変時の対応	看護倫理事例検討会 急変時の対応	看護倫理事例検討会 急変時の対応 ジェネラリストとしての実践報告レポート作成	看護倫理事例検討会
到達目標		センターの理念を理解し組織の一員として助言を受け安全に看護を提供できる	部署目標達成に向けて、自らの組織役割を自己目標と連動させ目標達成に取り組める	部署目標の達成に向けリーダー的役割を發揮して目標達成に取り組める	部署目標の達成に向けて指導的に関わる事ができる	センターの理念と自己目標を連動させ組織改革を推進できる
		組織人としての行動をとることができる	リーダー的役割や責任を認識して行動することができる	リーダーとして問題解決に向けた行動と成果を出すことができる	部長とスタッフのハイパード役として機能し、あらゆる面でマネージメントの補佐ができる	組織の資源、地域資源を活用し、あらゆる面で卓越したマネージメントができる
組織的役割遂行能力	組織的役割遂行能力	<p>□組織の一員としてコスト意識を持ち、正しい物資を扱えることができる</p> <p>□避難訓練に積極的に参加し、避難経路を確認できる</p> <p>□センター、看護部の理念を踏まえて常に行動できる</p> <p>□医療安全マニュアルに沿った行動及び、標準予防策を理解した行動ができる</p>	<p>□組織における、リーダー的役割を認識し、主体的にメンバーに働きかけ、成果を残すことができる</p> <p>□カンファレンスや会議の中で論理的に意見をいうことができる</p> <p>□医療安全の基準、手順を確実に実施できる</p> <p>□感染防止対策を確実に実施でき、子どもと家族にタイムリーに説明ができる</p> <p>□病棟患者の病状を把握しており、業務の遂行に際して必要な場所と適切な人材を配置することができる</p> <p>□委員会での1年間の取り組みを成果物として提出することができる</p> <p>□インシデント/アクシデントの分析ができ対応策がとれる</p>	<p>□看護実践、教育委員会、安全委員会として部長としての役割を、遂行できる。また委員長のサポートを受けながら遂行できる</p> <p>□リーダーとして他部門の連携、調整とチーム全体の看護計画がケアの受け手へ届いたものであるか確認でき、指導的介入ができる</p> <p>□自らの看護を倫理綱領に照らし合わせ振り返ることができる</p> <p>□積極的な業務改善に取り組む、見える形で成果を上げることができる</p> <p>□医療機器、薬品器具の点検ができ、形と物品管理ができる</p>	<p>□看護部、センターから求められる役割を担うことができる。委員長としての役割を果すことができる。行動できる</p> <p>□看護部の目標を基盤としてチームの指導、助言ができる</p> <p>□部長とスタッフのハイパード役として機能することができる</p> <p>□病棟理念、看護部理念、看護部目標の理解ができ、人間関係の調整ができる</p> <p>□チームの患者把握が的確にできるように、患者の看護の必要度イベントコントロールを運動して考えることができる</p> <p>□メンバーに実践のモデリングとしての指導的介入がとれる</p>	<p>□病院理念・看護部理念・看護部目標・病棟目標を整理し、その役割を果すことができる。学習課題を明確に示すことができ、行動できる</p> <p>□病院経営の視点で人的・物的資源の有効性について理解し実践できる</p> <p>□病棟理念、看護部理念、看護部目標、病棟目標を整理し、その役割を果すことができる。学習課題を明確に示す、教育プランを立て、講義として効果的なプレゼンテーションができる</p> <p>□院内外にネットワークを持ち、協力関係をつづけている</p> <p>□現場でのストレスマネジメント・メンタルヘルスへの対応ができる</p>
		<p>接遇研修</p> <p>感染防止対策 医療安全対策 災害対策 安全・感染研修会(各2回/年)</p>	<p>組織におけるリーダーシップ グループワーク(リーダーシップ) 安全・感染研修会(各2回/年)</p>	<p>看護管理について 効果的なカンファレンスの進め方 安全・感染研修会(各2回/年)</p>	<p>看護管理について 目標管理について 管理に関する研修会参加 安全・感染研修会(各2回/年)</p>	<p>看護管理について 目標管理について 効果的なカンファレンスの進め方 安全・感染研修会(各2回/年)</p>
実践研修		日々の業務遂行メンバーとしての役割が果たされているか指導する	リーダー役割の実践・評価	コーディネーター役割の実践・評価	部長代行役割の実践・評価	
到達目標		自己の課題が認識でき指導を受け学習できる	自己の学習課題に向けた学習活動を展開できる	自己のキャリアを履歴し小児、障害児領域に関する学習に取り組める	小児看護(障害児看護)に関して知識を深めスタッフ指導ができる	組織横断的にリーダーシップを発揮し部署や地域調整の協働ができる
		自己の考えを文章にまとめ示すことができる	看護専門職としての自覚と責任のある行動をとることができる	センター外への研究発表をすることができ、講師として教育活動に参加できる	学会発表ができ、後輩の研究指導ができる	院外の研修会の講師として活躍し、生涯にわたって自己教育を続けることができる
教育研究能力	教育研究能力	<p>□看護実践を通じて、自己の障がい看護観をまとめることができる</p> <p>□指導を受けながら自己の行った看護をケーススタディとしてまとめることができる</p> <p>□専門知識と技術の向上のために自主的に学習できる</p>	<p>□自己の行動を看護者の倫理綱領に照らし合わせて振り返ることができる</p> <p>□指導を受けながら自己の行った看護をケーススタディを一人て論理的にまとめることができる</p> <p>□興味のある研修に積極的に参加できる</p> <p>□研修参加後の伝言ができスタッフと共有する方法がとれる</p> <p>□後輩に対して基準・手順に基づいた指導ができる</p> <p>□自己の課題を明確にして、目標管理シートに活かし、課題を解決することができる</p>	<p>□指導を受けながら看護研究に積極的に取り組む専門性を高め成果物を提出することができる</p> <p>□研究調査書用紙を適切に記入することができる</p> <p>□センター看護部、他施設での教育活動に参加できる(講師等)</p> <p>□センター外への研究発表ができる</p> <p>□研修参加後の伝言ができ、組織に活用できる仕組み作りを行い、病棟もしくは院内のスタッフの行動改善が成果として得ることできる</p>	<p>□センター内の業務改善について企画、提案、実施、評価ができ成果物を提出することができる</p> <p>□自己の教育活動を展開することができる</p> <p>□組織的研究活動を実施し、看護学会等に研究発表を(以上)行うことができる</p> <p>□キャリアアップ、認定更新に必要な取り組みをすすることができる</p> <p>□部署及び看護部全体の倫理的行動力向上のための具体的な取り組みが成果として示すことができる</p>	
		<p>看護研究発表会への参加(センター内外) ケーススタディのまとめ方</p>	<p>看護研究とは 新人指導者研修 看護研究発表会への参加(センター内外) レポートの書き方</p>	<p>看護研究発表会への参加(センター内外)</p>	<p>看護研究発表会への参加(センター内外)</p>	<p>看護研究発表会への参加(センター内外)</p>
実践研修		障がい看護とはレポート作成	新人指導者の参加 ケーススタディとしてまとめる	新人指導の実施 学生指導の実施 研究の発表 カンファレンスの進め方(講師) ジェネラリストとしての実践報告	看護研究の実践及びスタッフ指導 看護管理実践報告レポート作成	